

高い専門性で早期発見！ 内視鏡センター

令和7年4月に設立。センター化したことにより、より専門性の高いスタッフ、診療科の枠を越えた連携が強化されました。1日の検査治療枠も大幅に増やし、遅滞なく病気を診断・治療することをめざして24時間体制で診療しています。



患者さんの声を大切に看護の質を高めています

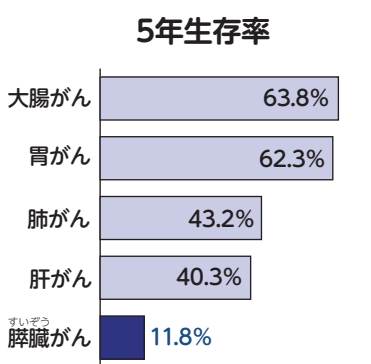


内視鏡センター
看護師
空中則士さん

専門性の高い看護師が在籍
内視鏡センターには、消化器内視鏡技師の資格をもつ看護師が在籍しています。学会への参加を通して、洗浄や感染などについての知識を深めています。また、専門的な介助もでき、安全・安心な検査・治療を提供しています。

**24時間365日遅滞なく
病気を診断・治療**
内視鏡センターは消化器内視鏡部門と呼吸器内視鏡部門を有し、内視鏡を用いた検査・治療を専門に行っています。内視鏡センターの設立により、1日の検査治療枠はセンター設立前と比べると月に100件以上増加しました。そのため、遅滞なく病気の診断・治療ができるようになりました。また、他の病院からの内視鏡検査の依頼も受けており、地域医療にも大きく貢献しています。

膵臓がんの生命予後(将来の生存の見通し)を改善するためには、がんをすべて取り切れる段階での早期発見・早期診断が極めて重要です。当医療センターでは、胆膵疾患に対する超音波内視鏡検査(EUS)や内視鏡的逆行性胆膵管造影検査(ERCP)を得意としています。膵臓がんは、今まで治療が難しいがんとして知られていましたが、早期に発見して治療を行うことで、完治に至るケースもあります。



【出典】国立がん研究センター
「院内がん登録2014-2015年 5年生存率」
から作成

膵臓がんは、初期段階では自覚症状がなく、早期発見が非常に難しいことから、5年生存率が他のがんと比べて極端に低くなっています。

**5年生存率が最も低い
膵臓がん**

**全国でも数少ない
精密膵臓検診**

当医療センターでは、人間ドックのオプション検査として、膵臓に特化した精密膵臓検診を導入しています。全国でもほとんど実施されていない希少な検診です。膵臓が気になる方や膵臓がんの家族歴がある、糖尿病などの膵臓がんの危険因子がある方は、精密膵臓検診のオプション検査についても検討してみてください。

がんを防ぐ第一歩は“検査”から

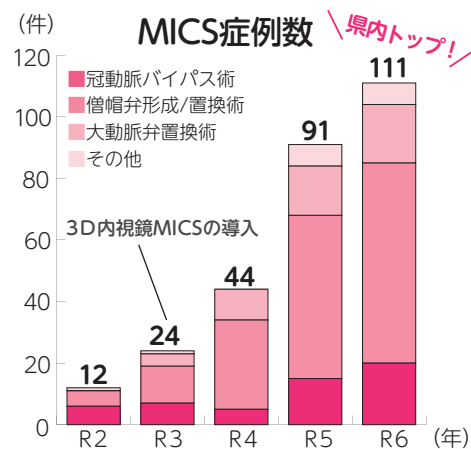
近年、慢性膵炎の方が多くみられます。慢性膵炎の主な原因はアルコールの多飲、ストレスや遺伝的要因などさまざまな要因がありますが、初期には自覚症状がほとんどありません。当医療センターが得意としている超音波内視鏡検査はCTやMRIでは捉えきれない疾患を早期に診断することが可能です。「気になる症状がない」と放っておかずに、検査を受けましょう。



内視鏡センター長、
消化器内科部長・診療科長
消化器センター副センター長
大瀬貴之医師

最先端技術で挑む！ 心臓血管外科

心臓血管外科では、身体への負担が少ないMICS（低侵襲心臓手術）に積極的に取り組んでいます。令和6年の症例数は、県内1位。全国的にも有数の多さを誇ります。患者さんにとって「最善の治療とは何か」を追求し、最適な医療を提供します。



小々な傷で心臓を救う
MICS（低侵襲心臓手術）とは、従来の胸部を大きく切開する手術とは異なり、小さな傷で心臓手術を行う方法です。当医療センターでは、令和3年に3D内視鏡MICSを導入しました。心臓手術を可能とする精密な3D内視鏡により、立体的で鮮明な画像を見ながら、まるで実際の心臓を直視しているかのような繊細かつ正確な手術が実現できるようになりました。従来の正中切開では困難だった手術が可能となり、幅広い症例に対応しています。導入以降、症例数は年々増加し、県内トップの実績を誇ります。

現時点で全国的にも限られた施設のみで実施されているMICS手術。従来の心臓手術は執刀医しか手術箇所を見ることができませんでしたが、3D内視鏡MICSは手術箇所をモニターに映し出すので、全員に共有することができ、そのため、外科医、麻酔科医、技士、看護師など全員の技術向上につながっています。また、患者さんにとっても、血管や神経の損傷リスクが軽減されるなどのメリットがあります。今後も最先端技術を駆使し、安全かつ確実な手術を提供できるよう、技術や知識を磨き続けます。

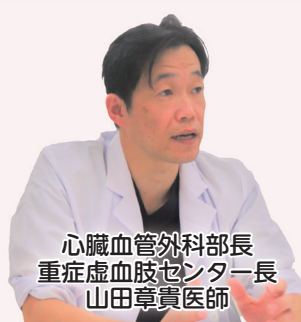
**最先端技術の治療が
北播磨にはある**

3D内視鏡MICSの特徴

- 身体への負担が少なく、退院や社会復帰が早い(術後1週間程度で退院)
- わずか3センチほどの小さな傷で、手術痕が目立ちにくく、術後の痛みが少ない
- 感染リスクが軽減され、縦隔炎という重大な合併症を回避できる
- 3D内視鏡により視野が拡大され、繊細かつ正確な手術が可能

世界トップレベルの技術で命を救う！

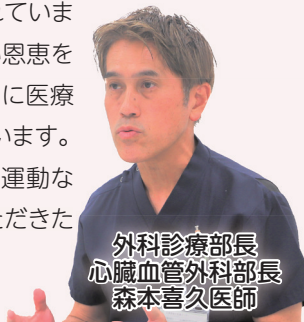
正中切開では難しかった心臓手術も3D内視鏡MICSでは可能になりました。これにより、さまざまな要因で手術を受けられなかった患者さんにも、新たな選択肢を提供できるようになりました。しかし、外科手術である以上すべての患者さんが望んだ結果を得られるわけではありません。だからこそ、私たちは今後もチーム一丸となって研さんを続け、最善の治療を提供します。



心臓血管外科部長
重症虚血性心臓センター長
山田章貴医師

医療界の発展に！

3D内視鏡MICSは、術後の負担が小さいことから、県外からも多くの患者さんに選ばれています。今後も3D内視鏡MICSの素晴らしい恩恵をたくさんの患者さんに届けていくとともに医療界の発展にもつなげていきたいと考えています。日々の生活では、血圧の管理と適度な運動など生活習慣に気を配り、健康を守っていただきたいと思います。



外科診療部長
心臓血管外科部長
森本喜久医師